

令和4年度高校生公開授業・講座の実施予定

茨城県立医療大学と茨城県教育委員会との協定による高校生を対象とした公開授業・公開講座です。
茨城県教育委員会の推薦により受講者を決定しています。

【公開授業】6授業・延べ17名・7校 本学の学生と一緒に授業を受講します。

授業名	授業概要	受講期間	担当教員
学問の時代を創った人々	今日に至るまで、人はそれぞれの職業を通して、よりよく、より豊かに生きようとしてきた。研究者は研究者として、実践家は実践家として自らの生き方に悩みつつ、新しい研究や実践を生み、社会に貢献してきた。この授業では、様々な領域で時代を画した研究者や実践家のプロフィールと研究・実践内容を知る中で、自らもこれからどのように生き、どのように仕事をしていくかを考えることを目指す。社会学、英語学、精神医学、宗教学、公衆衛生学という異なる領域の教員が、一時代を画した研究者や実践家の人生と業績を扱う。	前期後半 ・月曜	人間科学センター 才津芳昭教授
健康障害の成り立ちⅠ	健康障害の成り立ちを病理学の立場から教授する。代謝異常、循環障害や腫瘍などのテーマごとに、病理学総論を中心とし、代表的疾病については、それぞれの疾患の各論に及ぶ内容を講義する。	後期前半 ・月曜	医科学センター 馬場健教授
健康障害の成り立ちⅡ	健康障害の成り立ちの学問体系である、病理学、病態生理学領域を教授する。主要臓器における代表的な疾病や症候毎に、発症の原因と進展の機序について、形態と機能との関連性を示しつつ、病理病態学の見地から概説する。	後期後半 ・月曜	医科学センター 山口直人教授
地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの概念、思想、実践方法について総括的に述べる。特に地域リハビリテーションの具体的内容、課題、あるべき将来像、在宅リハビリテーションとの関連などについて説明する。高齢者・障害者にとって地域生活に重要な介護保険の意義・制度・問題点や、高齢者・障害者への支援体制のあり方と問題点を述べる。新たに導入される地域包括ケアについて述べる。	後期後半 ・火曜	医科学センター 河野豊教授
薬理学	医療従事者は薬物治療を受けている人の治療に従事するため、薬物に関する知識を学ぶ必要がある。薬物の作用や副作用、注意点を理解し、安全な医療を提供できるようになる。	後期後半 ・木曜	医科学センター 田口典子教授
代謝生化学	人体の構成成分の種類とそれらの分子構造及び機能を学ぶ。これらの分子の代謝経路及びその調節機能を理解し生命現象の基本を学ぶ。また生合成機構、分解経路、エネルギー代謝、遺伝情報発現機構を学び、それらの異常に起因する疾患について分子レベルから原因と症状を理解し、治療方針の基本について理解する。	後期 ・木曜	人間科学センター 相良順一准教授

【公開講座】 3 講座・68 名・19 校 高校生のための講座です。

講座名	講座概要	開講日	担当教員
熱中症予防と救急法 ～もしもの時に役立つ知識 と技術～	熱中症になるメカニズムと予防法、熱中症になってしまった時の対応法を体験学習します。運動部に所属している生徒さんや、運動部のマネージャーをやっている生徒さんなどにおすすめです。	7 月 21 日	医科学センター 角友起准教授
化学実験体験講座 「分光光度計を使って、身近 な食材のタンパク質を定量 してみよう！」	化学分析入門として身近な食材のタンパク質を定量し、化学の面白さを実感する。	8 月 2 日	人間科学センター 相良順一准教授
コーチングについて学んで コミュニケーション能力を 高めよう！	皆さんはコーチングというものを知っていますか？特にスポーツ場面で用いられることが多いコーチングは、選手の「能力を引き出す」ことを目的にしています。そのため、コーチは様々な方法を用いて選手の能力を引き出そうとするのですが、そこでは特にコミュニケーションが重要視されています。そこで、コロナ禍で人と接する機会が大きく減ってしまった今だからこそ、本講座を通してコーチングで用いられる方法について学びながら、コミュニケーション能力を高める練習を実践してみましよう。	8 月 17 日	医科学センター 角友起准教授